

八 〇安政 十七日

速 水 久 次  
佐々木作兵衛

倭訓栞前編二十四はかせ。舟の名によぶは越前舟也又うづらと稱す、鶉に似たり。

〔和漢船用集四〕舟名數海船ハカセ考未越前舟也、俗ハカヒソと云は、舳の形鳥の羽がひのごとく

なるによつて云か、又ウヅラと稱するも、鶉に似たるを以云なるべし、凡七八百石積の舟也、其制常の海舟とは各別にて、平底を用、川舟のかわらのごとし、水押も川舟のごとく、臺垣立なし、取置の上はき板有、帆柱表の方より立る、柁はろくろ柁なり、

〔嬉遊笑覽器用〕ハガセソ。越前船なり、舳の形、とりの羽がへの如くなるに依て名く、

〔和漢船用集四〕舟名數海船北國舟 加賀能登、越後、津輕、南部等の舟也、是を北前舟、北國舟といふ、俗呼てドン、グ、リ、舟と云は、其形の似たるを以いふなるべし、是をヲモキ造りと云、凡千石以上の大

船也、舟の制は、ハカセとすこし異也、

〔和漢船用集四〕舟名數海船琵琶虫 同琉球舟也、船側の外に、四寸角の木、豎に打、其上を板にて包と

いへり、薩州にて琵琶に似たる虫有、其虫の形に似たるを以て名付呼といへり、

〔和漢船用集五〕舟名數江湖川船鯰魚舟 小船、其制舟の頭まどかにして、如鯰魚之頭、故に名付、

〔和漢三才圖會船橋〕三十四船略 中

鈎鋒舟 長四丈餘、似艦而薄、其艦尖如鈎鋒、故名之、凡淺川水五六寸而亦能行、自大坂至大和川、可用之、

〔和漢船用集五〕舟名數江湖川船劍鋒舟

又鈎先舟と書、凡荷物十六駄を載す、大和、河内、荷物運送の舟なり、古劍先舟、在劍先、新劍先舟の別あり、是所謂字彙に形如刀、故に舳と名付るの類にて、形の似たるを以て名とす、長サ九尋餘、深サ